

平成25年度
事業報告書

学校法人 常葉学園

目 次

1. 法人の概要	
(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	5
(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等の状況	6
(5) 役員の概要	7
(6) 評議員の概要	8
(7) 教職員の概要	9
2. 事業の概要	
(1) 事業の概要	10
(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	10
(3) 施設等の状況	20
(4) その他	22
3. 財務の概要	
(1) 財務の概要	23
(2) 資金収支計算書	24
(3) 消費収支計算書	26
(4) 貸借対照表	27
(5) 主な財務比率比較	28
(6) 借入金の状況	29
(7) 寄付金の状況	29
(8) 補助金の状況	30

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

建 学 の 精 神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ
枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禅師のこゝば「一日作さざれば一日食はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

(2) 学校法人の沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校（普通科）開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡女子高等学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校
昭和41年	4月	常葉女子短期大学（国文科、保育科）開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園

昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置
昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 ○常葉女子短期大学→常葉学園短期大学 ○常葉女子短期大学附属とは幼稚園→常葉学園短期大学附属とは幼稚園 ○常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園→常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 ○常葉高等学校→常葉学園高等学校 ○常葉中学校→常葉学園中学校 ○橘高等学校→常葉学園橘高等学校 ○橘中学校→常葉学園橘中学校 ○常葉短大附属菊川高校→常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科（美術・デザイン専攻）[学位授与機構認定専攻科]設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻 [学位授与機構認定専攻科] 及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校
平成8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更

平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置 常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部グローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	3月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止
	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置
平成22年	3月	浜松大学経営情報学部（経営情報学科・情報ネットワーク学科）及び国際経済学部（国際経済学科）廃止
	4月	浜松大学健康プロデュース学部（健康柔道整復学科、健康鍼灸学科）設置 富士常葉大学社会環境学部（社会環境学科）設置
平成24年	8月	常葉学園高等学校全日制課程家庭科廃止認可、常葉学園医療専門学校廃止認可
平成25年	3月	富士常葉大学環境防災学部廃止
	4月	大学統合等に伴う学校名の変更 ○常葉学園大学→常葉大学 ○常葉学園短期大学→常葉大学短期大学部

- 常葉学園大学教育学部附属橘小学校
→常葉大学教育学部附属橘小学校
 - 常葉学園短期大学附属とこは幼稚園
→常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園
 - 常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園
→常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園
- 常葉大学に学部、大学院研究科及び別科を設置
- 法学部法律学科
 - 健康科学部看護学科・同静岡理学療法学科
 - 経営学部経営学科
 - 健康プロデュース学部健康栄養学科・同こども健康学科・同心身マネジメント学科・同健康鍼灸学科・同健康柔道整復学科
 - 保健医療学部理学療法学科・同作業療法学科
 - 社会環境学部社会環境学科
 - 保育学部保育学科
 - 健康科学研究科健康栄養科学専攻・同臨床心理学専攻
 - 環境防災学研究科環境防災専攻
 - 留学生別科

平成26年 3月 浜松大学留学生別科及び富士常葉大学留学生別科廃止

(3) 設置する学校・学部・学科等

(平成25年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	開設年月	摘要
常葉大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	昭和55年4月	
			生涯学習学科	平成10年4月	
			心理教育学科	平成16年4月	
		外国語学部	英米語学科	昭和59年4月	
			グローバルコミュニケーション学科	平成16年4月	
		造形学部	造形学科	平成14年4月	
		法学部	法律学科	平成25年4月	
		健康科学部	看護学科	平成25年4月	
			静岡理学療法学科	平成25年4月	
		経営学部	経営学科	平成25年4月	
			健康栄養学科	平成25年4月	
		健康プロデュース学部	こども健康学科	平成25年4月	
			心身マネジメント学科	平成25年4月	
			健康鍼灸学科	平成25年4月	
健康柔道整復学科	平成25年4月				
保健医療学部	理学療法学科	平成25年4月			
	作業療法学科	平成25年4月			
社会環境学部	社会環境学科	平成25年4月			
保育学部	保育学科	平成25年4月			
	留学生別科	平成25年4月			
常葉大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	平成8年4月	
			国際教育専攻	平成8年4月	
		初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	平成20年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成25年4月	
			臨床心理学専攻	平成25年4月	
環境防災研究科	環境防災専攻	平成25年4月			
浜松大学	昭和63年4月	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	平成19年4月	※1
			サービスと経営学科	平成19年4月	※1
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年4月	※1
			こども健康学科	平成17年4月	※1
			心身マネジメント学科	平成17年4月	※1
			健康鍼灸学科	平成22年4月	※1
		保健医療学部	健康柔道整復学科	平成22年4月	※1
			理学療法学科	平成21年4月	※1
			作業療法学科	平成21年4月	※1
			留学生別科	平成17年4月	※2
浜松大学大学院	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻	平成8年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成21年4月	※3
	臨床心理学専攻		平成21年4月	※2	
富士常葉大学	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	平成12年4月	※1
		社会環境学部	社会環境学科	平成22年4月	※1
		保育学部	保育学科	平成18年4月	※1
			留学生別科	平成18年4月	※2
富士常葉大学大学院	平成18年4月	環境防災研究科	環境防災専攻	平成18年4月	※4
常葉大学短期大学部	昭和41年4月		日本語日本文学科	昭和41年4月	
			英語英文科	昭和47年4月	
			保育科	昭和41年4月	
		専攻科	音楽科	昭和43年4月	
			国語国文専攻	平成7年4月	
			保育専攻	昭和45年4月	
	音楽専攻	昭和45年4月			
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成17年4月	※2
常葉学園高等学校	昭和27年4月	全日制課程	普通科	昭和27年4月	
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	昭和58年4月	
			普通科	昭和38年4月	
			音楽科	昭和46年4月	※4
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	昭和47年4月	
			美術・デザイン科	昭和47年4月	
常葉学園中学校	昭和23年4月				
常葉学園橘中学校	昭和40年4月				
常葉学園菊川中学校	平成15年4月				
常葉大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月				
常葉大学短期大学部附属とこほ幼稚園	昭和41年4月				
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園	昭和45年4月				

※1 学生募集停止、平成27年度をもって廃止予定

※2 平成25年度（平成26年3月）廃止届出提出

※3 学生募集停止、平成26年度をもって廃止予定

※4 平成26年度廃止認可申請

(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成25年5月1日現在)

学校名	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	440	594	
		生涯学習学科	80	295	344	
		心理教育学科	80	295	314	
	外国語学部	英米語学科	100	415	441	
		グローバルコミュニケーション学科	70	295	242	
	造形学部	造形学科	80	330	356	
	法学部	法律学科	160	160	208	
	健康科学部	看護学科	80	80	75	
		静岡理学療法学科	60	60	70	
	経営学部	経営学科	300	300	246	
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	80	103	
		こども健康学科	50	50	53	
		心身マネジメント学科	110	110	118	
		健康鍼灸学科	30	30	24	
	保健医療学部	健康柔道整復学科	30	30	32	
		理学療法学科	40	40	39	
	社会環境学部	作業療法学科	40	40	41	
社会環境学科		100	100	82		
保育学部	保育学科	80	80	101		
	留学生別科	20	20	2		
常葉大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	0	
		国際教育専攻	10	20	6	
	初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	20	40	26	
	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	5	5	4	
		臨床心理学専攻	10	10	10	
環境防災研究科	環境防災専攻	10	10	0		
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	-	430	212	※1
		サービスと経営学科	-	400	274	※1
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	-	260	189	※1
		こども健康学科	-	220	137	※1
		心身マネジメント学科	-	360	257	※1
		健康鍼灸学科	-	90	34	※1
	保健医療学部	健康柔道整復学科	-	90	77	※1
		理学療法学科	-	120	149	※1
		作業療法学科	-	120	85	※1
		留学生別科	-	40	7	※2
浜松大学大学院	経営学研究科	経営学専攻	15	30	17	
	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	-	10	4	※3
		臨床心理学専攻	-	10	10	※2
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	-	570	415	※1
	社会環境学部	社会環境学科	-	410	247	※1
	保育学部	保育学科	-	250	257	※1
富士常葉大学大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	-	30	0	※2
常葉大学短期大学部		日本語日本文学科	80	160	94	
		英語英文科	80	160	92	
		保育科	200	400	426	
		音楽科	55	110	79	
	専攻科	国語国文専攻	20	40	22	
		保育専攻	20	40	26	
		音楽専攻	20	40	38	
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	医療専門課程	理学療法学科	-	240	166	※2
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科	240	720	656	
英数科		80	240	137		
普通科		420	1,260	785		
常葉学園橘高等学校	全日制課程	音楽科	-	40	14	※4
普通科		315	945	811		
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	美術・デザイン科	60	180	131	
常葉学園中学校			80	240	142	
常葉学園橘中学校		90	270	217		
常葉学園菊川中学校		60	180	177		
常葉大学教育学部附属橘小学校		60	360	287		
常葉大学短期大学部附属とこほ幼稚園		90	240	233		
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園		86	230	228		

※1 学生募集停止、平成27年度をもって廃止予定

※2 平成25年度（平成26年3月）廃止届出提出

※3 学生募集停止、平成26年度をもって廃止予定

※4 平成26年度廃止認可申請

(5) 役員の概要

理事 11人 (定数 10人以上 13人以内)

監事 5人 (定数 2人以上 5人以内)

(平成25年4月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤別	摘要
理事長 常務理事 理事	木宮健二	常勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任 (平成25年3月迄) 平成25年4月常葉大学短期大学部学長就任
常務理事 理事	木宮岳志	常勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月常務理事就任 平成21年4月副理事長就任 (平成25年3月迄) 平成22年4月常葉学園短期大学学長就任 (平成25年3月迄)
常務理事 理事	高木敏正	常勤	平成21年4月理事就任 平成21年4月常務理事就任
常務理事 理事	加藤薫	常勤	平成23年4月理事就任 平成23年4月常務理事就任
常務理事 理事	佐々木弘	常勤	平成25年4月理事就任 平成25年4月常務理事就任
理事	西頭徳三	常勤	平成23年4月監事就任 (平成25年3月迄) 平成25年4月常葉大学学長就任 平成25年4月理事就任
理事	木村美知子	常勤	平成23年4月常葉学園中・高等学校校長就任 平成23年4月理事就任
理事	土屋義人	常勤	平成24年4月常葉学園菊川中・高等学校校長就任 平成25年4月理事就任
理事	宮川勇	非常勤	平成23年4月理事就任 [スズキ株式会社 顧問]
理事	神野建二	非常勤	平成23年4月理事就任 [東海澱粉株式会社 代表取締役会長]
理事	北村敏廣	非常勤	平成23年4月理事就任 [株式会社静岡新聞社 代表取締役専務]
監事	水島和夫	非常勤	平成25年4月監事就任 [元国際医療福祉大学参与]
監事	阿部浩三	非常勤	平成25年4月監事就任 [臨濟寺老師]
監事	石橋一郎	非常勤	平成6年4月理事就任 (平成9年3月迄) 平成6年4月常務理事就任 (平成9年3月迄) 平成9年4月監事就任
監事	齋藤安彦	非常勤	平成21年4月監事就任 [弁護士]
監事	狩野義之	非常勤	平成25年4月監事就任 [静岡県対がん協会事務局長]

(6) 評議員の概要

評議員42人（定数39人以上51人以内）

（平成25年4月1日現在）

氏名	在任年月	主な現職等
西頭 徳三	新任	常葉大学学長（浜松大学・富士常葉大学学長併任）、理事
木宮 健二	11年	常葉大学短期大学部学長、理事長
岡本 徹	新任	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
木村 美知子	2年	常葉学園中・高等学校校長、理事
吉村 耕司	7年	常葉学園橘中・高等学校校長
土屋 義人	2年	常葉学園菊川中・高等学校校長、理事
柴田 幸洋	2年	常葉大学教育学部附属橘小学校校長
稲葉 昌代	3年	常葉大学短期大学部附属とは幼稚園園長
堀 則雄	新任	常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園園長
山崎 正	新任	常葉大学副学長（静岡キャンパス）
田中 誠一	新任	常葉大学副学長（浜松キャンパス）
稲葉 光彦	7年	常葉大学副学長（富士キャンパス）
鈴木 薫	5年	常葉大学入学センター長
小田切 真	新任	常葉大学教務部長
鈴木 治	2年	常葉大学学生部長
山本 隆三	新任	常葉大学キャリアサポートセンター長
畑 隆	4年	常葉大学図書館長
一言 哲也	新任	常葉大学短期大学部学生部長
木宮 岳志	5年11か月	常葉学園本部事務局長、理事
高木 敏正	4年	常葉学園本部総務部長、理事
佐々木 弘	新任	常葉学園本部企画部長、理事
勝俣 元雅	28年	常葉学園大学第1回卒、常葉大学教職大学院主幹
池村 俊典	2年	浜松大学第1回卒
小倉 岳彦	13年	常葉学園富士短期大学第1回卒
稲川 直子	4年	常葉学園短期大学第2回卒
小澤 美佐子	12年	常葉学園中・高校第13回卒
村上 信也	8年	常葉学園橘中・高校第7回卒
伊藤 元久	12年	常葉学園菊川中・高校第6回卒
町田 益己	34年11か月	常葉学園橘中・高校第7回卒、常葉大学後援会静岡
矢部 正則	4年	常葉大学後援会浜松
三澤 賢治	8年	常葉大学後援会富士
荻野 義明	新任	常葉大学短期大学部後援会OB会
前畑 謙次	4年	常葉学園中・高校PTA
山田 誠	8年	常葉学園橘中・高校第15回卒、常葉学園橘中・高校OB後援会
大橋 隆夫	6年	元常葉学園菊川中・高校PTA、後援会長
木宮 和彦	62年4か月	常葉学園学園長
宮川 勇	新任	スズキ株式会社顧問、理事
神野 建二	新任	東海澱粉株式会社代表取締役会長、理事
北村 敏廣	新任	株式会社静岡新聞社代表取締役専務、理事
宮坂 広志	新任	静岡ガス株式会社取締役専務執行役員
望月 律子	新任	社団法人静岡県看護協会会長
加藤 薫	2年	常葉大学事務局長、理事

(7) 教職員の概要

(平成25年5月1日現在 単位：人)

		常葉学園本部	常葉大学 (静・浜・富C)	浜松大学	富士常葉大学	常葉学園短期大学	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務	0	220	70	38	44	35	10
	兼務	0	259	89	62	169	27	13
職員	本務	44	76	16	20	16	4	1
	兼務	34	26	12	10	8	1	1

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	49	15	52	14	26	13	12
	兼務	55	8	37	7	18	5	5
職員	本務	4	1	5	1	1	1	1
	兼務	5	5	3	0	2	0	0

		静岡リハ専	常葉リハ病院	総合計
教員	本務	9	0	607
	兼務	30	0	784
職員	本務	4	91	286
	兼務	1	33	141

(注) 本務者の平均年齢は、教員47.1歳 職員は42.3歳である。

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

教育基本法に基づく政府の教育振興に関する総合計画である「第2期教育振興基本計画」(実施年度：平成25年度～平成29年度)が、平成25年6月に閣議決定されました。計画には、①社会を生き抜く力の養成、②未来への飛躍を実現する人材の養成、③学びのセーフティネットの構築、④絆づくりと活力あるコミュニティの形成、の4つのビジョン(基本的な方向)が示されたほか、8つのミッション(成果目標)、30のアクション(基本施策)が盛り込まれました。

本法人におきましては、公教育の一端を担う私立学校の立場として、こうした国の教育方針にしっかりと対応する一方、私立学校の存在の意義である「建学の精神」を現代の教育にも継承しつつ、平成25年度事業計画に基づき多様な教育事業を実践いたしました。

特に平成25年度の主要事業として掲げた5つの重点事業計画のうち、校舎及び病院の施設整備に係る3つの工事については、すべてが当初計画どおり完成いたしました。

- ① 常葉大学静岡キャンパス水落校舎(法学部・健康科学部)第Ⅲ期建築工事[平成26年3月]
- ② 常葉中・高等学校校舎改築第Ⅱ期工事[平成26年3月]
- ③ 常葉リハビリテーション病院移転新築工事[平成25年10月]

なお、上記①②の工事のうち、外構工事及び駐輪場建築工事については、平成26年度への継続事業として引き続き整備を進めることとしたほか、「常葉大学の学部・学科再編計画の策定」及び「常葉大学短期大学部の学科再編及び校舎改築基本計画の策定」については、大学設置・学校法人審議会が年度途中において認可基準の改正や届け出設置制度の見直しを行ったこと等により策定には至らなかったことから、こちらも平成26年度の継続事業とし、年度内に成案を得ることとなりました。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

① 組織の充実・強化

厳しい経営環境の中で果敢かつ安定的な経営を実現するため、以下の点について推進しました。

第一に、平成25年4月から常葉学園大学、浜松大学、富士常葉大学を統合して「常葉大学」として新たなスタートを切ったことに伴い、より強固で方向性の明確な組織を確立し、内外に対し統一したブランドイメージを定着させるため、新学長の下、静岡・浜松・富士の各キャンパスに副学長を、全学には部長会を置くことにより、3キャンパスの意思統一と連携を図りながら大学改革を継続して推進しました。

また、全学的学務組織としては、大学教育の質保証を実現していくために教務部を、学生募集強化のために入学センターを(他の組織に先駆けて平成24年度から潜行して設置)、学生生活の支援充実のために学生部を、キャリア教育の充実と学生の就職支援のためキャリアサポートセンターを配置しました。

全学的事務組織としては、将来構想等を取りまとめるために学長室を、予算・補助金をとりまとめるために庶務課(全学)を置き、3キャンパスの円滑な事務処理に努めました。

第二に、法人事務局を3部制とし、内部監査を担当していた監査室を監査部に、幅広い事業を手掛けてきた総合企画室は、業務内容を整理して法人全体の教育事業に係る将来計画等を担する企画部に、法人全体の事務処理を担当してきた4課（総務課・人事課・会計課・管財課）を統括する組織として総務部を置くこととし、より効率的な業務の推進に努めました。

さらに、大学統合・学部新設の認可に際し、大学設置・学校法人分科会から付された留意事項への対応や、今後も継続して大学改革を推進するための常設組織として「大学改革推進事務局」を設置しました。

② 財政の健全化

学校法人の財政を支える主要な収入源は、帰属収入の7割弱を占める学生生徒等納付金であり、財務基盤を強化するためには、何よりも学生・生徒を安定的に確保する必要があります。このためには、学生、生徒、保護者等への満足度・信頼度を高めるよう、より質の高い教育を提供することに加え、地域の総合大学としての「常葉大学ブランド」を確立していく必要があります。

平成25年度は、常葉大学において携帯電話（スマートフォン）のアプリケーションを活用した募集活動を新たに展開したところであり、インターネットによる複数学部受験の割引（トコ割）の実施や総合大学を前面に押し出した広報事業の効果もあって、統合初年度に引き続き安定した受験者数と定員を上回る入学者を確保できました。

また、学生生徒等納付金に次ぐ収入となる補助金については、交付基準の変更や新学部の入学者が入学定員を大幅に超過したことによる補助金の不交付措置などもあって、大学及び短大部の経常費補助金は大幅な減少となりましたが、校舎建設に伴う私立大学等施設整備補助金や地震対策緊急整備補助金をはじめ、パソコン等IT教育環境設備補助金などの獲得に努めたことにより、20億円を超える補助金を確保することができました。今後も安定的な収入の確保に努めるとともに、事業別予算編成を導入する中で経費の削減や効率化を進め、学園の財政の健全化に努めてまいります。

なお、財務の公開にあたっては、学校法人が公共性の高い法人として社会に対する説明責任を果たすため、平成17年度に制定した財務書類閲覧事務取扱要領を遵守した情報公開に努めたほか、インターネット等を活用して、広く一般に向けた分かりやすい情報の提供を行ったところであります。

③ 特色ある教育事業の実施

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新たな教育研究にも取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指し、平成25年度は以下に掲げる教育事業を中心に推進しました。

○ 大学・大学院、短期大学、専門学校

〈常葉学園大学・大学院〉

大学統合に伴い、再構築した教育理念－「知徳兼備」「未来志向」「地域貢献」－を追求するための戦略－「教学面・経営面の一体化戦略」「教育システムの発展戦略」「総合大学（機能）の社会化戦略」－を遅滞なく推進しました。さらに、学部・学科再編基本計画の策定や統合に付帯して生起する諸問題（各キャンパス間の連携、2キャンパスを有する経営学部の一体的経営等）については、スピード感を持って対処に努めました。

〈静岡キャンパス〉

i. 施設設備の整備・充実

* 大学統合及び教育学部（生涯学習学科・心理教育学科）の入学定員増・課程認定（免許取得）に伴い、施設設備の整備・充実に努めました。

ii. 地域における活動と連携の強化

* 高大連携事業、DO-ing プロジェクト、教育フォーラム等を継続して実施しました。

iii. 新学部の適切な運営と校舎間の円滑な連携

* 法学部、健康科学部ともに設置計画に則った適切な学校運営を行うとともに、瀨名校舎と水落校舎・鷹匠校舎間との連携を進めました。

〈浜松キャンパス〉

i. 教育・研究活動の満足度向上

* 統合に際し、認可された設置計画（富士キャンパスとの一体的経営（経営学部）等）を着実に実施しました。

ii. キャリア支援体制の強化

* 統合効果を活かし、キャリアサポートセンターのもとで3キャンパス連携したキャリア支援体制を構築しました。

iii. 社会貢献活動の満足度向上

* HUVOCやエクステンションセンターの充実、地域・行政・経済界等との連携、高大連携を強化しました。

〈富士キャンパス〉

i. 大学統合に伴う諸課題への対応

* 留意事項への対応（キャンパス全体）、浜松キャンパスとの一体的経営（経営学部）、教育内容の周知徹底（社会環境学部）、修士課程の質の担保（環境防災研究科）等の課題改善に積極的に取り組みました。

ii. AO準備段階教育及び入学前教育のより一層の充実

* AO入試合格者を対象とする「準備段階教育プログラム」及び入学者全員を対象とする

「入学前教育プロジェクト」を充実し、大学で学修することの動機づけを継続的に行いました。

iii. 高大連携の強化、地域貢献の促進

- * 協定締結校及び富士市・富士宮市を中心とする地域との連携強化を図るとともに、様々な領域において地域貢献をより深化させるよう努めました。

〈常葉大学短期大学部〉

i. 学科構成等の見直し

- * 短大部の将来を見据えて全学的見地から学科構成等の検討を行いました。

ii. 教養教育の見直し

- * 短大部としての教養教育のあり方について検討した結果、学科構成等の見直しとの関連から当面は改訂しないことにしました。

iii. 校舎新築基本計画の策定

- * 常葉学園施設整備（改築）中期計画に基づき、法人本部において短大部の校舎新築基本計画の策定を行い、26年度中には策定することにしました。

〈常葉学園静岡リハビリテーション専門学校〉

i. 国家試験合格率の向上

- * 成績不振者に対する個別指導、専門講師及び専任教員による特別講義、定期的な模擬試験の実施、国語力アップ対策等を通じて合格率100%を目指しましたが、残念ながら84.4%にとどまり（全国の合格率83.7%）目標達成には至りませんでした。

ii. 様々な臨床実習対策を通じた確実な知識と技術の習得

- * 外部講師による講義、ゼミ単位による実技演習、全学生を対象としたコンピテンシー診断、症例発表等、多彩な対策を実施しました。

iii. 就職支援の強化及び卒業後教育の拡充

- * キャリアサポートセンターによる就職ガイダンスの実施及び卒業生を対象としたセミナーの開催等によるキャリアアップ支援等を行いました。

○ 高等学校、中学校、小学校

〈常葉学園中学校・高等学校〉

i. 「建学の精神」の再確認とその新たな具現化への取り組み

- * 「知性」を高める指導、「自立心」を育てる取組、「豊かな心」を引き出す取り組み等を推進しました。

ii. 【高校】進路達成を目指すコース別指導体制の強化

- * グローバルスタディーズコース、総合進学コースともに進路希望を達成するための指導・支援の強化等を図りました。

iii. 【中学】指導内容の充実

- * 特色ある英語教育の推進、福祉講座等を通じた指導力や社会性の涵養に努めました。

〈常葉学園橘中学校・高等学校〉

i. 「高い学力の養成」「学力を伸ばす」取り組みの推進

- * 新しい英語の学習システムの導入の検討、定期試験前後の「目標設定・振り返り指導」の実施等を推進しました。

ii. 「人間性を高める」取り組みの推進

- * こころざし教育の実践、女子教育の実践、学校行事の見直し等を実施しました。

iii. 「教育力向上」の取り組みの推進

- * PDCAサイクルによる活動点検、学校評価を踏まえた改善等を行いました。

〈常葉学園菊川中学校・高等学校〉

i. 教育力向上及び進学実績の向上

- * 研修及び授業・進路指導の一層の充実を図りました。

ii. 科・コースの特徴を活かした効果的指導の実践

- * 特に27年度からの実施に向け、普通科各コース編成の基本方針を検討しました。

iii. 部活動の充実

- * 運動部・文化部のさらなる充実を図るとともに、学習との両立に努めました。

〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

i. 6年間を通じた教育の推進

- * 自ら学ぶ力、自立する力、豊かな心を育成し、健康でたくましい体力の育成に努めました。

ii. 伝統をさらに磨き一人一人の付加価値を高める特色ある教育活動の推進

- * 感性を磨くオーケストラ学習、コミュニケーション力を高める英語、情報活用能力を高めるIT学習を進めました。

iii. 教職員の資質向上

- * 経営方針の浸透と共通指導体制の確立、若手・中堅を育てる授業研究、大学と連携した授業改善を推進しました。

○ 幼稚園

〈常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園・常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園〉

i. 保育の向上

- * 教員の資質向上に努めるとともに自己評価・学校関係者評価を実施しました。

ii. 幼稚園相互の連携・交流

* 職員合同研修及び園児の計画的な交流に努めました。

iii. 地域との連携強化

* 近隣との交流、町内行事への参加、園行事への招待等を行いました。

○ 豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の本年度における活用状況は、次のとおりです。

○ 中・高等学校	41件	3,966千円
○ 小学校	7件	330千円
○ 幼稚園	6件	306千円
計	54件	4,602千円

○ 募集状況・進路状況

本年度における学園全体の学生・生徒等募集状況は、志願者が前年度の1万6千人をさらに上回って初めて2万人台を突破し、2万1千人に達しました。その原動力となったのが、平成25年4月に誕生した常葉大学です。開設初年度は、ご祝儀相場もあって概ねこの大学でも安定した学生募集となりますが、翌年度はその揺り戻しにより志願者減が避けられないというのが通常です。しかしながら、常葉大学はこの「2年目のジンクス」を見事に払拭し、志願者を前年度にさらに5千人上乗せするという快挙を成し遂げました。この結果、入学者は入学定員1,680人（編入学・大学院を除く）を上回る1,770人となったほか、学部単位でも10学部中9学部が入学定員を確保しました。また、前年度は入学定員を大幅に上回る入学者となり、是正を求められていた2学部については、いずれも適正水準の入学者となりました。大学統合、法学部・健康科学部の新設、入試制度改革という大胆な改革に踏み出した常葉大学の教育・研究に対する地域からの期待が依然として続いているものと自負しておりますが、これを一過性に終わらせることなく、常にステークホルダーや地域から支持を得ることのできる大学を目指して引き続きたゆまぬ大学改革を推進してまいります。

また、ここ2年間、苦勞してきた学園内3高校の生徒募集が、揃って回復基調となったことも久しぶりの明るい材料です。しかしながら、静岡県の私立高校への入学者は、平成25年の1万1千人から平成33年には1万人を割り込むことが確実視されており、引き続き周到な募集対策の構築が不可欠です。

これ以外の学校では、学生・生徒募集に苦戦を余儀なくされたところもありました。進学人口の減少や志願者の志向の多様化といった構造的な問題もありますが、苦戦の原因を正確かつ速やかに分析して募集計画を再構築し、計画的できめ細やかな募集活動を展開するとともに、特色ある教育活動の推進により一層工夫を凝らし、地域から支持される学校づくりに努めてまいります。

一方、進路状況につきましては、学園内の大学・短期大学・専門学校の就職内定率は、学部学科により前年度を上回ったり、下回ったりばらつきはあるものの、各学校単位では、全国の大学・短期大学・専門学校の就職内定率をいずれも上回る良い数字を残しております。各学校ともに、低学

年次からの多様で丁寧なキャリアサポート事業の積み重ねにより、早くから学生の職業観や就職意識の涵養に努め、学生自らが主体的に就職活動を行ったことがこのような結果に結びついたといえます。

さらに、高等学校におきましては、多くの生徒が国公立大学、国公立短期大学、専門学校への進学を果たすとともに、希望する企業等への就職を叶えておりますが、質・量ともにさらにランクアップできるよう引き続きカリキュラムの改善、キャリア支援の充実に努めてまいります。

〈別表1〉

平成25年度における入学状況及び就職状況

(1) 大学・短大・専門学校

(平成26年5月1日現在)

学校名	学部・学科名		入学定員 (人)	入学者 (人)	就職内定率 (%)
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	127	100.0
		生涯学習学科	80	90	94.6
		心理教育学科	80	61	100.0
	外国語学部	英米語学科	100	110	94.1
		グローバルコミュニケーション学科	70	78	92.2
	造形学部	造形学科	80	109	73.8
	法学部	法律学科	160	171	—
	健康科学部	看護学科	80	87	—
		静岡理学療法学科	60	77	—
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	82	—
		こども健康学科	50	55	—
		心身マネジメント学科	110	116	—
		健康鍼灸学科	30	20	—
		健康柔道整復学科	30	30	—
	保健医療学部	理学療法学科	40	50	—
		作業療法学科	40	37	—
	経営学部	経営学科（浜松）	—	137	—
		経営学科（富士）	—	137	—
		経営学科計	300	274	—
	社会環境学部	社会環境学科	100	115	—
保育学部	保育学科	80	82	—	
計（就職内定率は3学部計）			1,680	1,771	92.9
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	—	—	88.6
		サービスと経営学科	—	—	96.7
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	—	—	96.1
		こども健康学科	—	—	100.0
		心身マネジメント学科	—	—	97.5
		健康鍼灸学科	—	—	100.0
		健康柔道整復学科	—	—	100.0
	保健医療学部	理学療法学科	—	—	100.0
		作業療法学科	—	—	100.0
	計			—	—
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	—	—	90.1
	社会環境学部	社会環境学科	—	—	95.7
	保育学部	保育学科	—	—	100.0
	計			—	—
常葉大学 短期大学部		日本語日本文学科	80	50	84.2
		英語英文科	80	47	93.9
		保育科	200	217	100.0
		音楽科	55	39	92.9
	計			415	353
静岡リハビリテーション専門学校		理学療法学科	—	—	84.4

※ 大学院、専攻科、留学生別科は除く

(2) 高等学校

①入学定員及び入学者数 (平成26年5月1日現在)

学 校 名	科	入学定員	入学者数
常葉学園高等学校	普通科	240	235
常葉学園橘高等学校	普通科	420	357
	英数科	80	49
	音楽科	40	—
	合計	540	406
常葉学園菊川高等学校	普通科	315	299
	美デ科	60	40
	合計	375	339

募集停止

②進学・就職状況 (平成26年5月1日現在)

学 校 名	卒業生数	進学者数			就 職	その他
		大 学	短 大	専門学校		
常葉学園高等学校	255	86	65	72	24	8
常葉学園橘高等学校	257	139	19	63	19	17
常葉学園菊川高等学校	330	202	32	54	15	27

④ 教育環境の整備・充実

より充実した教育の実現のため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取り巻く社会の環境変化に対応した施設・設備の整備事業を実施し、教育環境の整備・充実を図りました。

平成25年度は、常葉学園施設整備中期計画に基づき、水落校地において平成24年2月に着手した常葉学園中・高等学校の校舎改築工事及び常葉大学新学部（法学部・健康科学部）の校舎新築工事を実施し、両工事ともに平成26年3月12日に竣工し、供用を開始しました。

また、平成24年12月に常葉リハビリテーション病院の移転・改築工事に着手し、平成25年10月30日に竣工し、同年11月1日に移転が完了しました。その他、各校の施設・設備の更新・改修等の事業を実施しました。

主な整備事業は、次のとおりです。

- 常葉大学 静岡キャンパス … 水落校地整備事業（新学部新校舎建築工事）
第Ⅲ期工事竣工（平成26年3月12日引受）
新学部新設に伴う設置経費（教具・校具・備品等）
グラウンド改良（人工芝）工事
学長室・大学本部改修工事
瀬名校舎1号館研究室エアコン更新工事
瀬名校舎電話交換機設備更新工事
学食厨房機器更新
瀬名校舎2号館屋上・外壁防水工事
教室環境の改善 一本館の机・椅子の更新（704ほか全13室）
情報教育支援システム更新（Mac 実習室）5年リース
理事長・学長用公用車購入
- 常葉大学 浜松キャンパス … 本館エレベーター改修工事
本館1・2・3・5階トイレ改修工事
学友会室等改修工事
本館・1号館屋上防水改修工事
2号館屋上防水シート張替工事
- 常葉大学 富士キャンパス … 学生ホール（食堂）空調機更新
- 常葉大学 短期大学部 … 職員PC・ファイルサーバ リプレース
- 常葉中・高等学校 … 水落校地整備事業（中・高校分）…第Ⅱ期工事施工
第Ⅱ期工事竣工（平成26年3月12日引受）
新校舎教研備品購入
水落学校用地の取得（平成25年12月19日所有権移転完了）
- 橘小学校 … 校舎外壁他改修工事
- 常葉リハビリテーション病院… 新病院整備事業
工事竣工（平成25年10月30日引受）
新病院備品購入
巡回車両・急性期病院送迎用車両の購入
- 法人本部 … 旧常葉リハビリテーション病院用地の売却
旧常葉リハビリテーション病院建物解体工事契約

(3) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

施設名・所在地	施設等	面積等	帳簿価額	
常葉大学（静岡キャンパス） （静岡市）	校地	53,592㎡	2,222,144千円	本館、1号館、2号館、 3号館、水落校舎、 サテライトビル
	校舎等 6棟	39,253㎡	4,840,717千円	
（菊川市）	校地	11,524㎡	160,665千円	
	校舎等 3棟	9,184㎡	177,963千円	
（島田市）	寄宿舎 1棟	639㎡	67,708千円	川根実習施設
常葉大学（浜松キャンパス） （浜松市）	校地	205,599㎡	2,862,728千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、トコホール 7号館、8号館、9号館
	校舎等 15棟	41,231㎡	5,091,649千円	
常葉大学（富士キャンパス） （富士市）	校地	88,552㎡	1,942,056千円	1号館、2号館、3号館
	校舎等 6棟	20,642㎡	2,382,807千円	
常葉大学短期大学部 （静岡市）	校地	42,848㎡	1,579,607千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館
	校舎等 11棟	15,149㎡	945,591千円	
常葉中・高等学校 （静岡市）	校地	43,162㎡	2,480,553千円	新校舎、南館、常葉会館
	校舎等 3棟	9,715㎡	1,872,453千円	
橘中・高等学校 （静岡市）	校地	46,020㎡	369,472千円	本館、音楽等、美術棟 新館、和敬庵 尚志館、行之館、橘志館
	校舎等 9棟	18,349㎡	625,760千円	
菊川中・高等学校 （菊川市）	校地	73,920㎡	751,815千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、 美術棟、屋内練習場
	校舎等 10棟	15,305㎡	773,782千円	
橘小学校 （静岡市）	校地	13,703㎡	849,610千円	本館、ワクワクホール
	校舎等 2棟	4,113㎡	191,047千円	
とこは幼稚園 （静岡市）	園地	2,500㎡	171,875千円	
	園舎 1棟	1,361㎡	208,806千円	
たちばな幼稚園 （静岡市）	園地	2,283㎡	231,910千円	
	園舎 1棟	1,520㎡	192,943千円	
静岡リハビリ専門学校 （静岡市）	校舎等 1棟	3,022㎡	363,137千円	
常葉リハビリ病院 （浜松市）	土地	5,777㎡	106,620千円	
	病院 1棟	4,449㎡	885,009千円	

施設名・所在地	施設等	面積等	帳簿価額	
学園本部 (静岡市)	土地	4,546㎡	429,854千円	学生寮、研修センター、 迎賓館、スイミング
	寄宿舎 等 5棟	6,560㎡	289,664千円	
(浜松市)	土地	61,747㎡	775,364千円	三ヶ日セミナーハウス、等
	寄宿舎 1棟	733㎡	104,848千円	
(伊豆の国市)	土地	334㎡	17,000千円	現在使用していない
全体 (平成26年3月31日現在)	土地	656,107㎡	14,951,273千円	
	建物	191,225㎡	19,013,884千円	
			33,965,157千円	

② 主な施設設備の取得又は処分の状況

平成25年度の主な施設設備の増減は次のとおりです。

ア) 施設の取得

・常葉大学

水落校舎第3期工事分(鉄骨造8階建)

延床面積 : 3,993.94 ㎡ 取得価格 : 758,534千円

・常葉中・高等学校

水落校舎第2期工事分(鉄骨造8階建)

延床面積 : 4,839.07 ㎡ 取得価格 : 1,176,457千円

常葉中・高等学校用地取得

取得面積 : 259.57 ㎡ 契約金額 : 96,620千円

・常葉リハビリテーション病院

延床面積 : 4,449.09 ㎡ 取得価格 : 952,829千円

イ) 施設の処分

・常葉中・高等学校

旧校舎東館解体撤去(鉄筋コンクリート造4階建)

延床面積 : 1,467.59 ㎡ 除却金額 : 31,555千円

旧校舎北館解体撤去(鉄筋コンクリート造6階建)

延床面積 : 2,200.26 ㎡ 除却金額 : 3,351千円

・常葉リハビリテーション病院

旧病棟撤去

延床面積 : 6,131.52 ㎡ 除却金額 : 49,748千円

旧病院土地売却

売却面積 : 6,655.60 ㎡ 除却(取得)金額 : 149,664千円

(売却金額 : 186,500千円)

ウ) 施設設備の用途変更

・常葉静岡リハビリテーション専門学校の施設設備の全部または一部を常葉大学へ用途変更

常葉静岡リハビリテーション専門学校理学療法学科を常葉大学健康科学部へ発展転換したことに伴い、常葉静岡リハビリテーション専門学校の校地と校舎の一部を常葉大学の校地と校舎へと用途変更する。

(年次進行)

		旧	新	増減
校 地	リハ専	1,032㎡	0㎡	▲ 1,032 ㎡
	常葉大	64,083㎡	65,115㎡	+ 1,032 ㎡
校 舎	リハ専	3,179㎡	3,022㎡	▲ 157 ㎡
	常葉大	48,919㎡	49,076㎡	+ 157 ㎡

(4) その他

① 理事会の開催状況

第1回	平成25年	4月	1日	(月)
第2回	平成25年	5月	18日	(土)
第3回	平成25年	5月	18日	(土)
第4回	平成25年	7月	3日	(水)
第5回	平成25年	12月	23日	(月)
第6回	平成26年	3月	21日	(金)
第7回	平成26年	3月	21日	(金)

② 評議員会の開催状況

第1回	平成25年	5月	18日	(土)
第2回	平成25年	7月	3日	(水)
第3回	平成25年	12月	23日	(月)
第4回	平成26年	3月	21日	(金)

③ 監事監査の実施状況

第1回	平成25年	5月	13日	(月)
第2回	平成25年	12月	5日	(木)
第3回	平成26年	3月	13日	(木)

3. 財務の概要

(1) 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校経営の安定を図り、健全な学校運営のため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減」を基本目標に、経営の合理化に努めてまいりました。

平成25年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりです。

平成25年度の帰属収入（消費収支計算書参照）は、127億43百万円と前年度に比べ2億55百万円の増加となりました。これは、新学部の定員超過により経常費補助金の一部が交付されなかったことにより1億28百万円の減収となったものの、常葉大学入学者数が大幅に伸びたことにより授業料や施設設備資金などの学生生徒等納付金が3億92百万円の増収となったことなどによるものです。

また、基本金組入額は、常葉リハビリテーション病院の改築や常葉学園中・高等学校及び常葉大学新学部校舎が外構工事を残して概ね完成したことに伴う1号基本金への組入れのほか、常葉大学短期大学部、橘中・高等学校などの改築準備のために設けた2号基本金への組入れなどにより前年度に比べ18億円増加して40億19百万円となりました。

一方、消費支出の部合計は、121億23百万円で、前年度に比べ4億94百万円の増加となりました。これは、常葉大学新学部の教職員の増員に係る人件費、新学部・常葉中高校舎の設置に係る消耗品費、入学センターの入学者募集事業の前倒しによる広報費などの増加によるもので、人件費1億59百万円、教育研究経費2億26百万円、管理経費41百万円がそれぞれ増加し、消費収入から消費支出を控除した当年度消費支出超過額は33億99百万円となりました。

貸借対照表の資産の部は、前年度に比べ6億27百万円の増加となりました。

これは、旧リハビリテーション病院用地を売却したことにより土地が53百万円減少したものの、水落校地にかかる建物・構築物の取得や、その他の固定資産のうち、施設拡充引当特定資産がそれぞれ増加したことなどによるものです。

また、負債の部は、日本私立学校振興・共済事業団からの新規借入により、長期借入金12億98百万円増加したものの、その他の流動負債において、前期末未払金が解消されたことなどにより、ほぼ前年並みとなりました。

なお、基本金は、常葉大学短期大学部等の建築資金の第2号基本金への組入れなどにより前年度に比べ40億円余増加し、578億44百万円となりました。

(2) 資金収支計算書

2014.5.12

(単位:百万円)

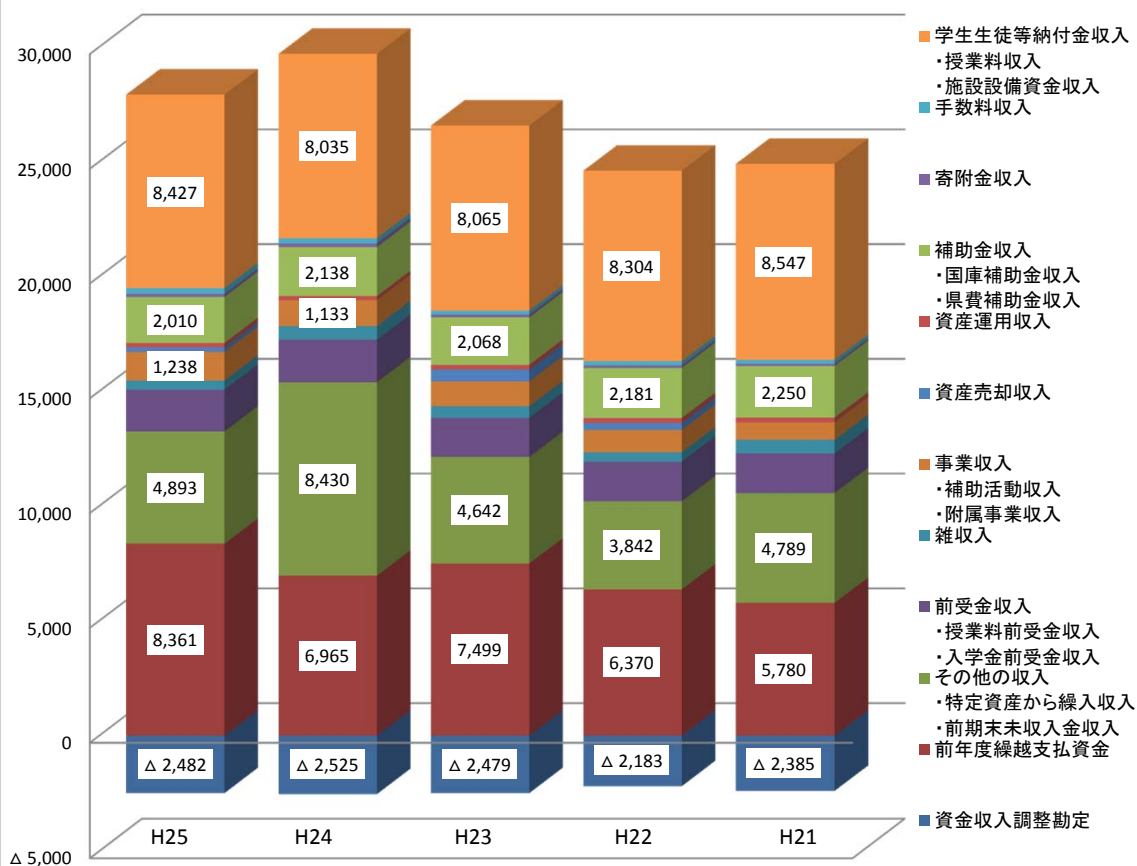
科目名		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,427	8,035	8,065	8,304	8,547
	手数料収入	256	221	165	181	172
	寄付金収入	129	164	128	111	88
	補助金収入	2,010	2,138	2,068	2,181	2,250
	資産運用収入	194	175	203	218	210
	資産売却収入	199	1	514	302	1
	事業収入	1,238	1,133	1,087	973	759
	雑収入	406	594	506	408	593
	前受金収入	1,814	1,849	1,702	1,724	1,723
	その他の収入	4,893	8,430	4,642	3,842	4,789
	資金収入調整勘定	△ 2,482	△ 2,525	△ 2,479	△ 2,183	△ 2,385
	前年度繰越支払資金 (*)	8,361	6,965	7,499	6,370	5,780
	合計	25,445	27,180	24,100	22,431	22,527
支出の部	人件費支出	7,780	7,621	7,545	7,421	7,628
	教育研究経費支出	1,832	1,728	1,637	1,758	1,801
	管理経費支出	1,065	1,033	912	924	830
	借入金等利息支出	12	14	18	21	24
	借入金等返済支出	73	104	104	104	87
	施設関係支出	3,161	1,870	426	360	340
	設備関係支出	611	677	339	298	278
	資産運用支出	4,103	6,471	6,022	3,586	4,804
	その他の支出	2,088	1,002	916	1,014	993
	資金支出調整勘定	△ 443	△ 1,701	△ 784	△ 554	△ 628
	次年度繰越支払資金 (*)	5,163	8,361	6,965	7,499	6,370
	合計	25,445	27,180	24,100	22,431	22,527

【計算書・勘定科目の説明】

- ・資金収支計算書 : 当該年度の収入・支出の内容を明らかにし、現金や預貯金など支払いに充てることのできる資金(*:支払資金)の有り高を表す。
- ・資金収入(支出)調整勘定 : 当該年度の収入・支出と前年度及び次年度の収入・支出を区分するために設けられた勘定科目(期末未収入金・前期末前受金、期末未払金・前期末前払金)
- ・消費収支計算書 : 当該年度の消費収入及び消費支出の内容を明らかにし、収支が均衡しているかどうか表す。(企業会計の損益計算書を援用している。)
- ・帰属収入 : 当該年度に受領した資金で、借入金や預り金のように返済が必要となるものを除いたもので、学校が自由に使える資金
- ・基本金(基本金組入額) : 学校運営の持続性を確保するために維持すべき資産の総計で、帰属収入のうちから毎年必要な額の組み入れを行う。(第1号基本金～第4号基本金)
- ・貸借対照表 : 年度末の時点で、どのような資産があり、どのような負債がいくらあるかなど学校法人が保有する財産の状況を表す。

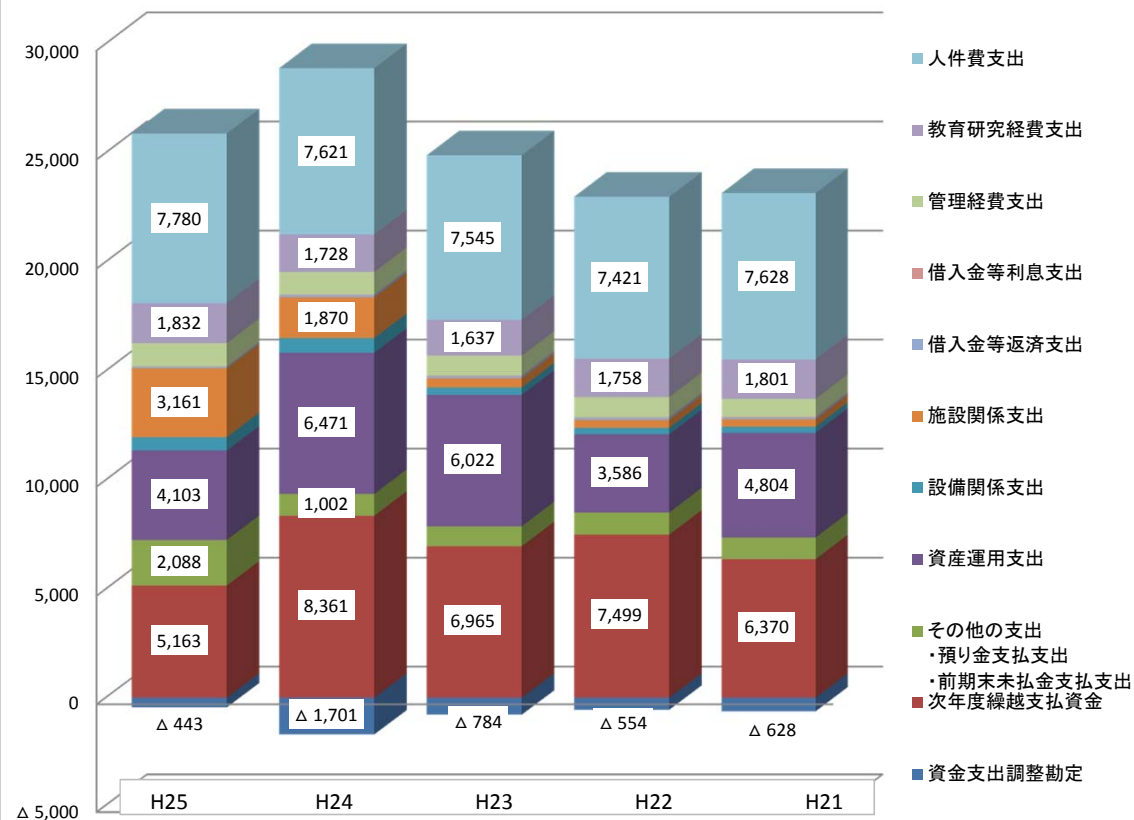
平成25年度 資金収支・収入の部

(単位:百万円)



平成25年度 資金収支・支出の部

(単位:百万円)

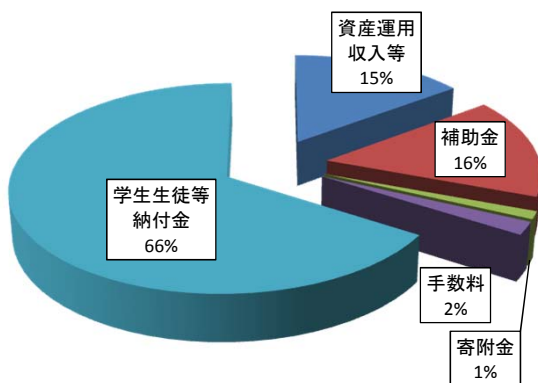


(3) 消費収支計算書

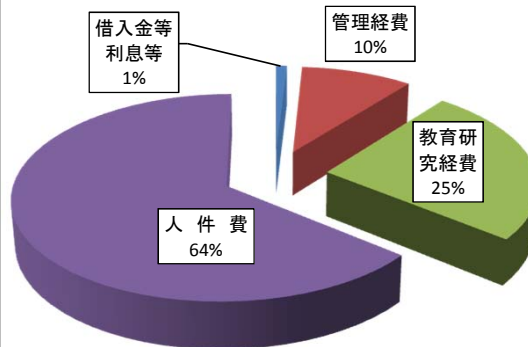
(単位:百万円)

科目名		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,427	8,035	8,065	8,304	8,547
	手数料	256	221	165	181	172
	寄付金	155	190	143	168	131
	補助金	2,010	2,138	2,068	2,181	2,250
	資産運用収入等	1,895	1,904	2,086	1,858	1,563
	帰属収入合計	12,743	12,488	12,527	12,692	12,663
	基本金組入額合計	△ 4,019	△ 2,219	△ 1,498	△ 614	△ 1,138
	消費収入の部合計	8,724	10,269	11,029	12,078	11,525
消費支出の部	人件費	7,780	7,621	7,545	7,450	7,658
	教育研究経費	3,051	2,825	2,726	2,859	2,950
	管理経費	1,177	1,136	1,020	1,033	939
	借入金等利息等	115	47	333	146	75
	消費支出の部合計	12,123	11,629	11,624	11,488	11,622

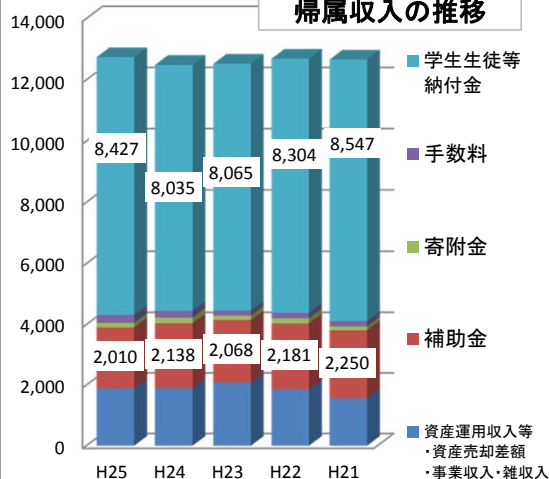
平成25年度 帰属収入



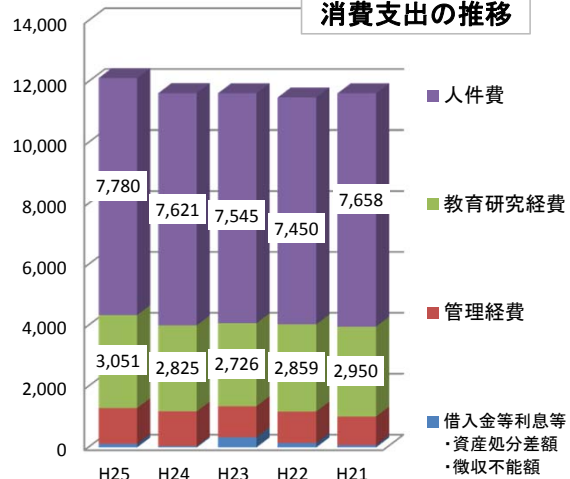
平成25年度 消費支出



帰属収入の推移



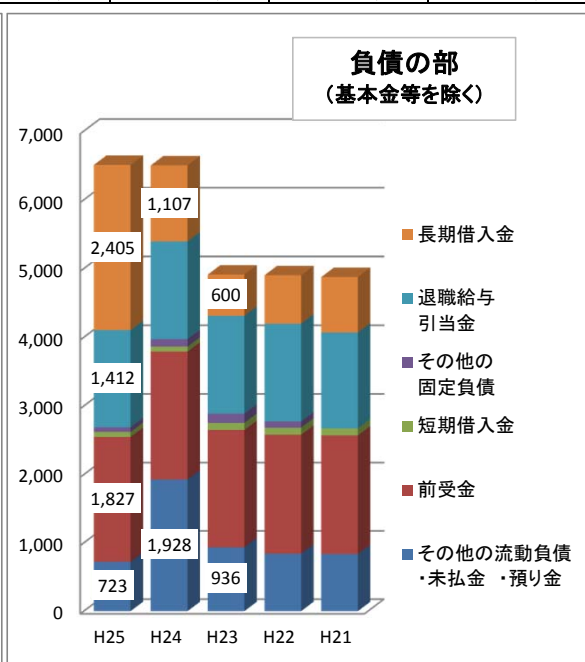
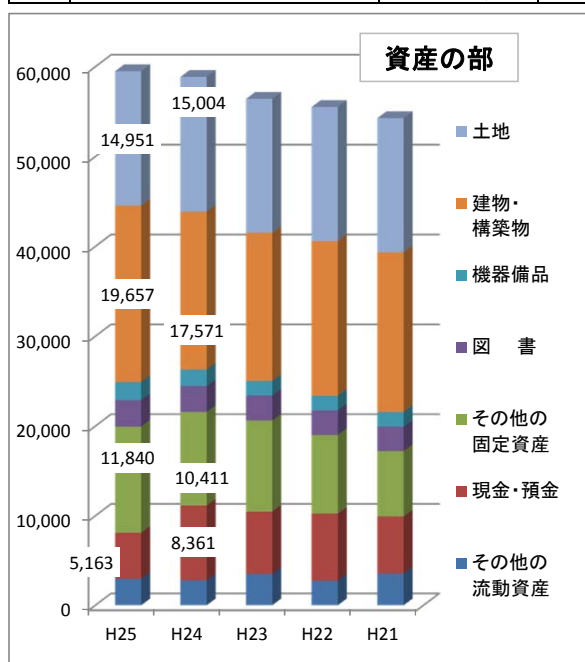
消費支出の推移



(4) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 名		平成26年3月31日	平成25年3月31日	平成24年3月31日	平成23年3月31日	平成22年3月31日	
資 産 の 部	固定資産	51,389	47,714	45,949	45,273	44,356	
	土 地	14,951	15,004	14,906	14,909	14,937	
	建 物・構 築 物	19,657	17,571	16,494	17,210	17,766	
	機 器 備 品	2,005	1,844	1,625	1,632	1,647	
	図 書	2,936	2,884	2,776	2,745	2,712	
	その他の固定資産	11,840	10,411	10,148	8,777	7,294	
	流動資産	8,105	11,153	10,469	10,233	9,920	
	現 金 預 金	5,163	8,361	6,965	7,499	6,370	
	その他の流動資産	2,942	2,792	3,504	2,734	3,550	
	合 計	59,494	58,867	56,418	55,506	54,276	
	負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	固定負債	3,886	2,638	2,156	2,218	2,202
		長 期 借 入 金	2,405	1,107	600	704	808
退 職 給 与 引 当 金		1,412	1,422	1,422	1,422	1,394	
その他の固定負債		69	109	134	92	0	
流動負債		2,623	3,864	2,756	2,685	2,675	
短 期 借 入 金		73	73	104	104	104	
前 受 金		1,827	1,863	1,716	1,738	1,736	
その他の流動負債		723	1,928	936	843	835	
基本金		57,844	53,836	51,924	50,776	50,437	
消費収支差額の部合計		△ 4,859	△ 1,471	△ 418	△ 173	△ 1,038	
合 計		59,494	58,867	56,418	55,506	54,276	

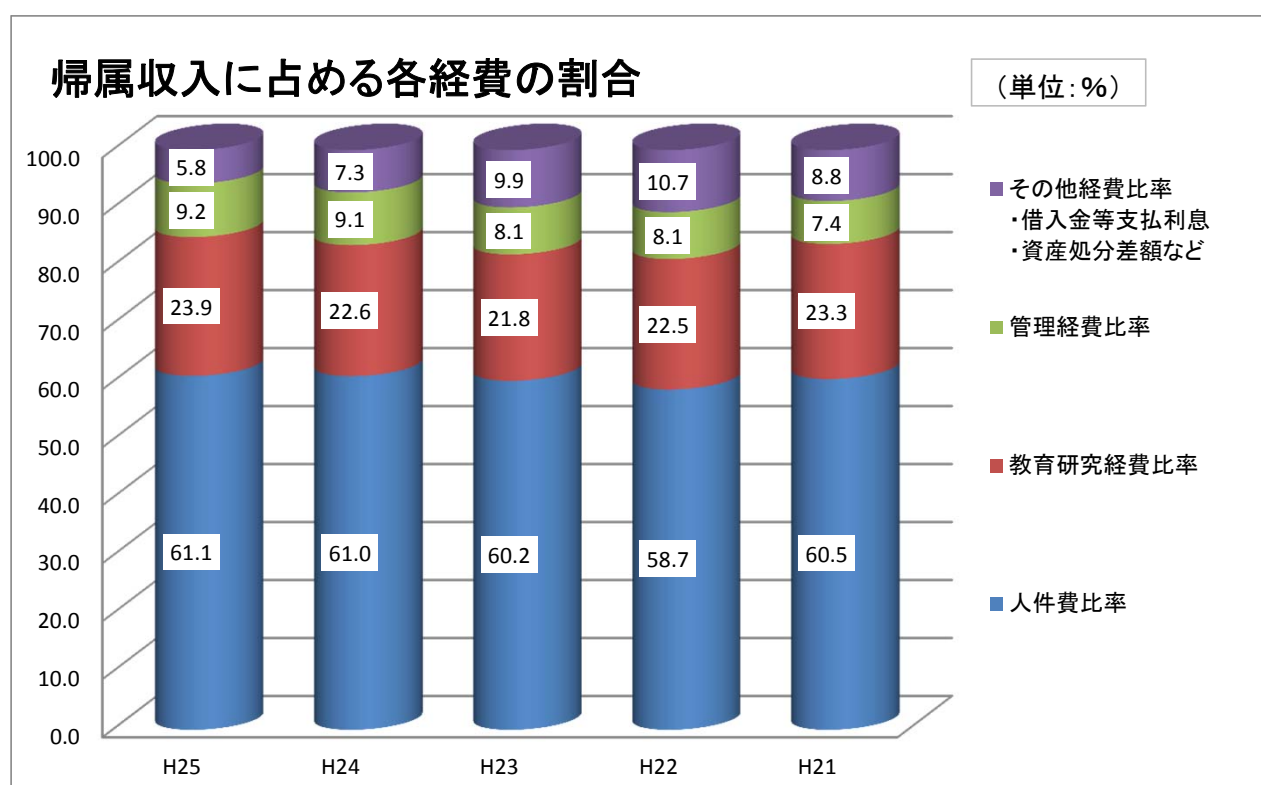


(5) 主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	算式	(注)	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△	4.9	6.9	7.2	9.5	8.2
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▽	139.0	113.2	105.4	95.1	100.8
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	66.1	64.3	64.4	65.4	67.5
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▽	61.1	61.0	60.2	58.7	60.5
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	23.9	22.6	21.8	22.5	23.3
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▽	9.2	9.1	8.1	8.1	7.4
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	309.0	288.6	379.8	381.1	370.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	▽	12.3	12.4	9.5	9.7	9.9
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	△	89.1	89.0	91.3	91.2	91.0
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	101.8	95.7	98.0	98.2	98.1

(注) △: 高い値の方がいい ▽: 低い値の方がいい —: どちらとも言えない



(総負債 : 固定負債+流動負債
 自己資金 : 基本金+消費収支差額
 総資金 : 負債(他人資金)+基本金(自己資金)+消費収支差額)

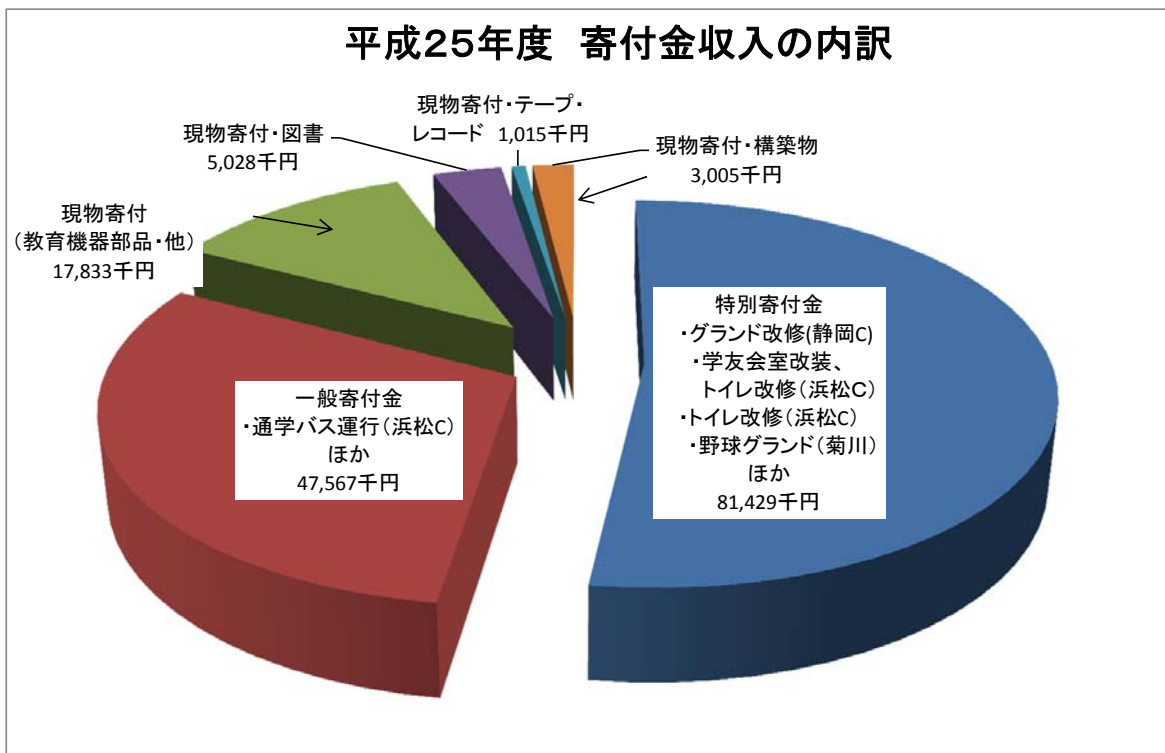
(6) 借入金の状況

借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校 振興・共済事業団	1,000,000	277,750	2.2	平成30年9月	土地、建物
	320,000	248,780	2.1	平成39年9月	土地、建物
	236,000	236,000	0.5	平成44年9月	土地、(建物)
	344,000	344,000	0.5	平成44年9月	土地、(建物)
	762,000	762,000	0.5	平成45年9月	土地、(建物)
	610,000	610,000	0.5	平成45年9月	土地、(建物)
合計	3,272,000	2,478,530		(建物)は、保存登記後に担保設定の予定	

(7) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(円)	摘要
特別寄付金	常葉大学静岡キャンパス後援会・学友会	20,000,000	瀬名校舎グランド改修工事
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス学友会	12,915,000	学友会室改装工事
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会・学友会	9,975,000	校舎本館(1・2・3・5階)トイレ改修工事
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会	5,000,000	ICカードキャンパスシステム入替支援
特別寄付金	菊川中・高等学校全国大会等出場後援会	3,500,000	野球部グランド施設設備の充実
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス同窓会	3,000,000	通学バス購入
一般寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会・学友会	18,000,000	通学バス管理委託費
一般寄付金	常葉大学浜松キャンパス(学校行事支援整備会計)	16,000,000	通学バス管理委託費

* 300万円以上の寄付金を記載



(8) 補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、4大学合計で4億94百万円余、静岡県私立学校経常費補助金(専門学校、高中校、小学校、幼稚園が対象)については、11校合計で12億82百万円余の交付を受けています。

